

松江市立天文台～6月の天文教室～

平成27年6月24日

6月下旬午後8時頃の星空～



6月22日が夏至なので、今は1年で一番夜が短く、太陽は朝5時前に昇り、夜は7時半頃に沈みます。8時頃からやっとなくなる夜空では、西の空に金星や木星が輝き、南の空には土星も見えて、とても華やかです。

東の空に目を転じると、夏の星座も見え始めてきました。梅雨明けが楽しみです。

6月下旬午後8時頃の星空です。

月、金星、木星及び土星の位置は6月24日現在のものです。

各天体の見かけの大きさは強調してあります。

この星図で星を探すときは、見る方角を下にしてみましょう。

今夜の月



今夜の月は月齢7.5で、ちょうど半月ですが、このような月の形を「上弦の月」といいます。
小型の天体望遠鏡でも、欠け際のクレーターが美しく見えます。

金星



金星は、地球の内側を回る惑星です、地球との位置関係で月のような満ち欠けをします。

土星

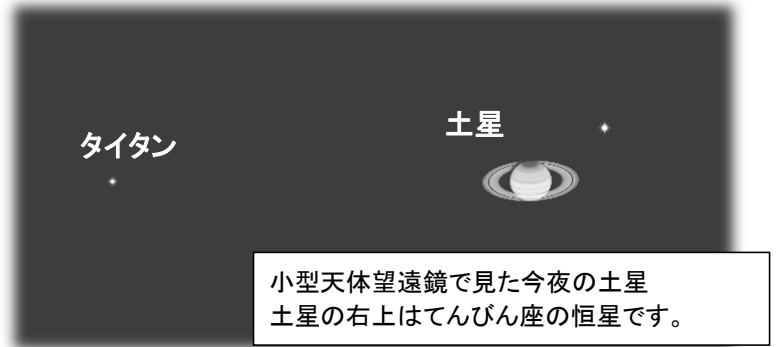
土星は直径約12万キロ(地球の約9.5倍)、美しいリングを持つ巨大な惑星です。
リングの正体は、数mmから数10cmの水や岩石で、リングの厚さは数百mとされています。
すこし離れて土星最大の衛星タイタンが見られます。

木星

冬から夜空を飾ってきた木星とも、しばらくお別れです。
今夜は4大衛星一番内側のイオが、木星の反対に消えていきます。



小型天体望遠鏡で見た今夜の木星



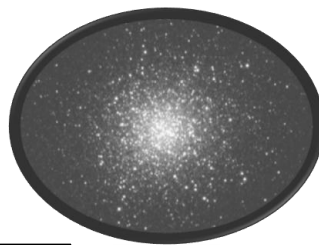
小型天体望遠鏡で見た今夜の土星
土星の右上はてんびん座の恒星です。

ヘルクレス座



ヘルクレスは、ギリシャ神話に登場する有名な英雄です。
有名なわりには、明るい星がないので、見つけにくい星座ですが、ちょっと変形したアルファベットのHを探してみましょう。
α星のラスアゲティはオレンジ色と青緑色の美しい二重星です。

球状星団M13



M(メシエ)13は、日本で見える最大級の球状星団です。
50万個もの星からなり、その直径は約100光年あると言われています。
双眼鏡で丸い星雲状に見え、大きな天体望遠鏡になると星がひとつひとつ分離して息をのむほどの美しさです。

資料のデータは天文年鑑、アストロアーツから引用しています。
使用する天体望遠鏡によっては、視野の上下左右が逆に見えます。
また、空のコンディション(雲、透明度)により、天体の見え方は違います。

次回の天文教室

開催日 7月22日(水) 20時から21時まで
(受付は19時30分から市役所正面玄関で行います。)
事前の予約は不要です。



★ MAC Matsue Astronomy Club
松江星の会